

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業））
難治性疾患の継続的な疫学データの収集・解析に関する研究（H26-難治等（難）-一般-089）
総合研究報告書

特発性基底核石灰化症に関する研究

研究協力者：永田知里（岐阜大学大学院医学研究科 疫学・予防医学分野）

研究要旨：厚生労働科学研究費補助金特発性基底核石灰化症研究班（研究代表者：保住功、岐阜薬科大学大学院薬物治療学教授）では、頭部 CT 上、両側基底核に明らかに病的な石灰化を呈する症例の登録を行っている。これらの症例の臨床症状を明らかにし、その症状に関わる因子を同定すること目的としているが、特に、環境や生活習慣に関わる因子との関連を評価するため、共同研究者として参加している。現在、登録患者においてアンケート調査を実施している。

A．研究目的

厚生労働科学研究費補助金特発性基底核石灰化症研究班では、従来ファール病と呼ばれる特発性基底核石灰化症の有病率の把握、病因・病態の解明、治療法の確立を目的としている。全国調査では原因不明、臨床症状の有無を問わない、頭部 CT で両側大脳基底核・小脳 歯状核の両方/あるいはどちらかに生理的な範囲を超える、主治医の判断で病的と思われる石灰化を呈しているという基準で、症例を収集し、臨床症状の有無、それに関与する因子を明らかにすることを目的とした。

B．研究方法

特発性基底核石灰化症研究班で登録された症例において、主治医による神経症状の把握とともにアンケート方式にて本人に頭痛、手の震え、ふらつき、てんかん、不随意運動、もの忘れ等の症状の有無について尋ねる。特に頭痛については平田幸一ら（獨協医科大学）の調査票を用い評価する。既往歴、薬剤使用歴、金属・有機溶剤などの職業曝露歴、飲酒、喫煙、食習慣、女性に月経・出産関連因子等の質問も加え、これらの因子が症状の有無に係るか評価する。また、家族性も認められるなどを遺伝因子の関与が考えられ、症状の有無を規定する遺伝子の同定も行う。

（倫理面への配慮）

大学の倫理審査委員会での承認を得ている。

C．研究結果

研究協力者として症状の有無に係る特に生活環境因子を同定に関与している。現在、調査実施中である。

D．考察

ケース内研究の形であるが、今後は疾患の定義あるいは分類を明確にし、ケース・コントロール研究の実施が必要であろう。

E．結論

現在、調査実施中である。

F．研究発表

1．論文発表（書籍を含む）
なし

2．学会発表
なし

F．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む）

1．特許取得
なし

2．実用新案登録
なし

3．その他
なし